

仕合わせの



第240号

令和4年3. 1
(毎月1日発行)

父母の恩

合掌 住職 谷川寛俊

千葉県市川市にある大本山法華経寺(大荒修行堂)を開いた富木常忍という武士(後、出家して日常上人)は、日蓮聖人の熱心な信者(外護者)でした。

この富木日常上人が、建治2年(1276年)聖人が身延山へお入りになられた翌々年の二月下旬、九〇歳で亡くなられた母親のご遺骨を首にかけ、身延山の聖人のもとに参られ、母親の遺骨を聖人の御草庵にある釈尊の御宝前に安置し、日蓮聖人にご回向(ごまご)をして頂いて、感激の涙にくれました。悲しみも消えて法悦の涙に浸りながら、母親の深い恩をしみじみと感じ入ったと言われています。その様子をご覧になった聖人は、富木殿へ、手紙を差し出され次のようにお書きになりました。「教主釈尊の御宝前に母の遺骨を安置



し、五体を地に投じ、合掌して両眼を開き、釈尊の尊容を拝すれば、歓喜身に余り、心の苦しみ忽ちちまち息(や)む。我が頭(こうご)は父母の頭、我が足は父母の足、我が十指は父母の十指、我が口は父母の口なり」と。

私達の身体は、父母から頂いたものであり、私達の身体には遠い遠いご先祖様からの血が流れています。生前中の父母を喜ばせて生きたことは当然ですが、亡き父母を始めとしたご先祖達を尊ぶ心は忘れてはなりません。更に「孝と申すは高なり、天高けれども孝よりも高からず。又、孝とは厚なり、地厚けれども孝よりは厚からず。聖賢の二類(世の中で、努力成功している人は、親孝行の人が多い)は、孝の家より出たり。何(いか)に況(いわ)ん、仏法を学せん人知恩・報恩なかるべしや。」

父母やご先祖様への孝養は、先ずは私達が世の為、人の為、陰の力になって幸せになることです。幸せになって

真成寺ホームページ



玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子

TEL・FAX 0765-22-2268

携帯 080-3744-2523

こちらの番号でもお寺につながります。

悦(よろこ)びの生活を送ることです。何故ならば私達が悦べば父母が悦ぶ。父母が悦べばご先祖達も悦ぶからです。父母やご先祖様方が悦んでくれることは、父母達が仏になることであつて、ご報恩になります。

日本のT自動車会社は、今や世界の大企業になりました。もともとT家は、静岡の浜松にあつて小さな工場でした。それが大企業に成長したのは、努力によつたことは勿論でしょうが、ご先祖に対する報恩感謝の念が人一倍強い方だと、先年友人である菩提寺の住職から聞きました。

毎年お盆になると、社長自ら幹部数人連れて、お墓の掃除に行かれるそうです。そうしたご先祖に対する報恩感謝の気持ちを通じ、目に見えないご先祖様の御守護があるものと確信いたします。

今月は、春のお彼岸です。どうぞご先祖を思い、報恩の真心を捧げましょう。

独りで花咲くのではない 茎があり根があり土がある